



[エマオ通信]

No.4 (11月15日発行)
 発行人 高良 研一 (会長)
 編集人 稲川 仁 (副会長・事務局長)
 発信者 木村 均 (書記)

日本バプテスト連盟全国壮年会連合 「伝道者養成と教会形成を担う働き」

24/25年度主題: 「私と教会が元気になるには」

聖句: わたしたちの心は燃えていたではないか (ルカ 24:32)

<メッセージ>

『私たちに伴われる主』

鳥飼 好男 (市川八幡教会)

マタイ 8:23-27 の「ガリラヤ湖上での『舟』の出来事」は、今日の『教会』の出来事に共通します。

「イエスが舟に乗り込まれると、弟子たちも従った。」とあるように、『教会』もイエスが乗り込まれ、それに従って船出をするのです。「そのとき、湖に激しい嵐が起こり、舟は波にのまれそうになった。」とあります。思いがけない出来事に遭遇したのです。教会と同様です。船出です。予期せぬ嵐に遭遇することは、当然あるわけです。問題は、嵐に遭遇することではなく、同船しているキリストの存在を忘れ、必死に自分たちの経験と知恵で「世の荒波」に対処を挑もうとしてしまうことです。しかし、結局は徒労に終わり、恐怖に呑み込まれそうになります。

『教会』とは、主イエス・キリストに招かれた群れで、形は大きくても小さくても、人数がどうであろうと、その存在性の本質は、どんな事態が起ころうと、主イエス・キリストが共におられる力を証する群れなのです。しかし、私たちは時々「イエス・キリストが共にいることではなく、人間的に物事を解決してみせようとする」間違いを犯します。具体的には、「イエス・キリスト不在の宣教」をやってしまい、世の荒波に迎合してしまうことさえあります。

互いに心から愛し合い、励まし合いながら主イエス・キリストを礼拝する群れでありますように。協力伝道体である連盟の諸教会・伝道所と「多様な声の響き合う」協働を喜びとする群れでありますように。全ての『教会』が「元気」でありますようにと、いつも私たちに伴われている主のみ名によって祈り続けます。 新生讃美歌 500 番 「イエスがいなければ」



教会の子どもと一緒に

<証①> 能登への災害ボランティアの派遣

根塚 幸雄 (横須賀長沢教会)

神奈川バプテスト連合には災害対策委員会がありますが、昨年度、県内の教会・伝道所にも参加してもらい、大災害が起きた場合の対策を一緒に検討しました。その中で、「私たちには災害時の経験が乏しいので外部の経験のある団体と繋がったらどうか」という提案がなされ、今年初めにキリスト全国災害ネット (全キ災) に加盟しました。ちょうどその時に能登地震が発生しました。全キ災が能登の諸教会と連絡を取り翌日から ZOOM による情報交換会議が行われ、いろいろなキリスト教の団体や教会が二日後から現地に入って活動を始めるのを目の当たりにしました。連日、テレビで報じられる悲惨な光景 (ご家族の死や住居を失う等) は、1 年前に妻を亡くした私にとって、他人事とは思えない悲痛な思いがしました。なんとか、被災している人たちの慰めにならないかという思いと、一方で万が一、関東で大地震が起きた場合にどうしたら良いのかを現地の方々の活動から知りたいという思いが強くなりました。災害対策委員会のメンバーも神奈川連合の役員会も皆が賛成してくださり、3月に1陣目 (5名) を8月に2陣目 (15名) を派遣しました。私たちの行う作業はほんの数日ですが、全国からのボランティアが続いて少しでも被災された方への励ましにつながることを願っています。また、日本バプテスト連盟からは交通費の補助をいただき、多くの方々が献金で活動を支えて下さいました。



2024年8月取り壊し予定のホテルからの物資運び出し



2024年3月ブロック塀の撤去作業

<証②> 信徒を中心とした活動 ～東京地方連合・東ブロック幹事会～

東ブロック幹事 志築 正治 (市川大野教会)

2024年9月23日、新小岩教会を会場として東ブロック「秋の集い」が開催されました。午前中は、「千葉県キリスト教会の始まりとこれから」と題しての講師・山口陽一さん(TCU教授)による講演、午後は楽しい聖書クイズによる交わりと各教会の祈りの課題を共有した祈り会というプログラムで、参加者約80名でした。

この秋の集いは、毎年9月23日、東ブロックにつながる12の教会・1つの伝道所からなる東ブロック幹事会の当番教会が中心となって開催されています。

この東ブロック幹事会は、各教会の信徒が幹事として、東ブロック幹事会に出席し、東ブロック秋の集いの企画、各教会の情報共有を行っています。

私が、この東ブロック幹事会に参加したのは、2018年に市川大野教会が当番教会として企画・開催・運営に携わることがきっかけでした。その後、幹事として関わるようになりました。新型コロナの感染拡大前は、2か月に1回、平日夜に幹事会を対面で行っていましたが、新型コロナ感染拡大以降はメールやZOOMによる幹事会を行っています。

新型コロナ感染拡大の影響により、秋の集いは、2020年は休止となりましたが、その後ZOOMとのハイブリッド開催、サテライト方式による開催等の新しい試みによる開催、そして今回の一堂に会しての開催と、主の導きがあったことを感じます。

2か月に1回の幹事会においても、各教会の現状の今後の活動を情報共有することにより、自身の教会へのヒントや励ましとなることも多くあります。

今後も、幹事会の働きを通して、信徒を中心とした活動の豊かさを感じることができるとなればと自分自身期待しています。



東ブロック「秋の集い」



山口陽一さん(TCU教授)

<今後の歩みと働きのための祈り>

- 教会形成を担う働きとしての協力伝道の一環として、中部連合壮年会の福井教会への協力伝道や、北海道連合の3教会合同WEB礼拝、西九州連合の五島教会への協力伝道のように、各地方連合やその壮年会を通じて伝道隊を含めた協力伝道の業により、一人ひとりが元気にされ、教会が元気になることが出来るように。
- 信徒ひとり一人が伝道者、そして献身者となり、教会を担う主体となる為に、神学校での(オンライン)受講等により良き学びの機会が与えられるように!
- 信徒一人ひとりの献身から「教役者の働きを担う献身」へ導かれるように。
- 各神学校の強みを生かした三つの神学校(西南大、東京バプ・九州バプ)と宣教研究所の相互連携、諸教会の研修に豊かに資することが出来るように。
- 来年度より神学校献金が、神学生奨学金のみならず、東京バプ・九州バプの両神学校への運営資金の支援(年間350万円)として豊かに用いられるためにも、神学校献金の目標(24年度総額2500万円)達成の為に、各教会で豊かな取組みができるように。
- 「私と教会が元気になるには」の年間主題のもとに、この「エマオ通信」により、日々の歩みの中で元気に歩んでおられる方々の主にある証を分かち合うことで、自分と教会が元気になるキッカケとなる事ができるように。
- 来年第60回全国壮年大会(埼玉の浦和教会でオンライン併用) 2025年8月22(金)/23日(土) 北関東連合壮年会実行委員長 戸田 浩司(西川口教会)
テーマ:「これからのNo Borderな教会の話をしよう! ~教会が「教会」であり続けるために~」
主題講演 講師: 朴 思郁 日本バプテスト連盟宣教研究所所長(西川口教会牧師)
多くの参加者により良き学びの大会となる為の準備のために。

<お願い>

- それぞれのところで主にあって頑張っておられる方々や働きをご紹介ください。このエマオ通信でその証を紹介してまいります。
- 第1回壮年大会(1965年目白ヶ丘教会他)開催以来の大会資料をお持ちの方をご紹介下さいますように。

<その他>

- 2024西九州大会(第59回全国壮年大会)のYouTube配信中。ホームページ(<https://sonen.net>)をご覧ください。